

記者発表資料（発表・資料配付）				
月／日	担当課（室）名	電話	発表者名（担当者名）	その他配布先
2／12 (火曜)	兵庫県教育委員会事務局スポーツ振興課 (神戸マラソン実行委員会事務局)	078 325-1430	参事(事務局長) 山根尚 (末吉篤史)	県政記者クラブ 神戸市政記者クラブ
	神戸市教育委員会事務局スポーツ体育課 (神戸マラソン実行委員会事務局)		担当課長(事務局総務部長) 渡邊智明	

「熊本城マラソン 2019」への『震災交流ランナー』の派遣について

この度、「熊本城マラソン 2019」が2月 17 日(日)に熊本市で開催されます。

神戸マラソンと熊本城マラソンは、「阪神・淡路大震災」と「平成 28 年熊本地震」に対する多くの皆さまからいただいた支援への感謝の想いを広く伝えるため、平成 29 年7月 29 日に「FRIENDSHIP OF HIMAWARI」パートナーシップ協定(以下、協定)を締結しました。今回、この協定に基づき、神戸マラソンからの「震災交流ランナー」として大学生2人を派遣し、震災の教訓と元気を全国に発信します。

また「117KOBEB ぼうさい委員会」の大学生たちと連携して、2月 15 日から 17 日の3日間、PR ブースを出展し、11 月 17 日(日)に開催する「第9回神戸マラソン」のランナー募集(4月～5月)に関する広報を行います。

あわせて、ランナーやその関係者を対象にして、災害に備えるための啓発活動を熊本市で初めて行います。神戸マラソンの公式マスコットの「マラソンはばタン」も熊本に駆けつけ、その他の関連イベントでも、大会を盛り上げます。

1 「震災交流ランナー」の派遣の概要

(1)派遣期間

平成 31 年2月 15 日(金)～17 日(日)

(2)参加種目及び派遣者

・「歴史めぐりフルマラソン」(42.195km)

原 一貴(はら かずき)(19 歳 西宮市出身・在住)「117KOBEB ぼうさい委員会 メンバー」

・「復興チャレンジファンラン」(約3km)

平野 舞(ひらの まい)(25 歳 神戸市出身・在住)「117KOBEB ぼうさい委員会 メンバー」

※「117KOBEB ぼうさい委員会」は、兵庫県内の大学生が中心となって災害への備えの大切さを訴えていくプロジェクトです。

2 神戸マラソンのPRブース出展等の概要

(1)PRブース出展

- ①「第9回神戸マラソン」に関する広報
- ②人形を使った心肺蘇生とAEDの使い方体験
- ③身近なものを使った防災グッズ作り

●EXPO会場

日時:2月15日(金)・16日(土)10時～20時

場所:[仮称]花畑広場(熊本市中央区花畑町7-10)

●ふれあいエリア

日時:2月17日(日)9時～17時

場所:熊本城二の丸広場(熊本市中央区二の丸2-1)

(2)その他の日程

日時:2月16日(土)18時～19時30分

内容:前夜祭式典

場所:ホテル日航熊本「阿蘇」の間

日時:2月17日(日)10時55分～16時25分(予定)

内容:イベント(「元気くまもと 応援合戦 2019」)

場所:桜の馬場 城彩苑内

※マラソンはばタンは、両日参加。震災交流ランナーは、16 日のみ参加。

【この件に関する問い合わせ先】

神戸マラソン実行委員会事務局

電話:078-325-1430 FAX:078-321-0072



感謝と友情

KOBE2019 MARATHON





減災復興 国際シンポジウム

テーマ：「来るべき大津波に備えて過去の教訓をどう生かすか

～ Lessons from past experiences to prepare for future tsunami ～」

- 主 催 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科
- 共 催 JICA 関西
- 日 時 2019 年 2 月 13 日（水） 13:30～17:00（受付 13:00～）
- 会 場 国際健康開発センタービル 9 階 国際会議室

■ プログラム

13:30 開会挨拶 太田 勲（兵庫県立大学学長）

13:35 報告

減災復興政策研究科の取組み

青田 良介（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授）

紅谷 昇平（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授）

13:50 特別講演

災害知識を構築し育む：2004 年津波後のシャクアラ大学（インドネシア、バンダアチエ）のイニシアティブ

カイルール・ムナディ（インドネシア シャクアラ大学津波防災研究センター長）

津波早期警戒システムに関わるエンドツーエンドの問題：パル・スダ海峡津波からの教訓

ウドレク（インドネシア技術評価応用庁上級研究員）

15:00 ～15:15 休憩

15:15 パネルディスカッション

テーマ1 住民の意識と地域での取組み

（話題提供） 馬場 美智子（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授）

テーマ2 行政の取組み

（話題提供） 奈良 雄規（南あわじ市危機管理部危機管理課係長/

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科修士課程 1 年）

パネリスト

カイルール・ムナディ（シャクアラ大学津波防災研究センター長）

ウドレク（インドネシア技術評価応用庁上級研究員）

奈良 雄規（南あわじ市危機管理部危機管理課係長）

馬場 美智子（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授）

コーディネーター

阪本 真由美（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授）

16:45 閉会挨拶 室崎 益輝（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長）

司会：宮本 匠（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科講師）

講演者・コーディネーター・パネリスト プロフィール



カイルール・ムナディ（シャクアラ大学津波防災研究センター長）
1996年にスラバヤの工科大学を卒業後、東京都立大学で工学の修士号（2004年）と博士号（2007年）を取得。専門は電気工学。1999年にシャクアラ大学の電気工学部講師に着任。2004年のインド洋大津波後、防災研究に携わるようになり、バンダ・アチエの津波ミュージアムの立ち上げに尽力した。2008年からシャクアラ大学津波防災研究センター（TDMRC）に所属し、2013年から同センター長。シャクアラ大学大学院防災研究科でも教鞭をとっている。現在の研究テーマは、画像・マルチメディアの情報処理、災害リスク軽減のための情報技術の利用、災害リスク軽減のための知識管理など。



ウドレク（インドネシア技術評価応用庁上級研究員）
東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻、海洋研究所にて博士後期課程修了、博士号を取得。2012年、インドネシア技術評価応用庁（BPPT）防災技術室長兼土地・地域防災技術部長に着任。2015年から、同庁上級研究員。現在は、インドネシア海洋データセンターの関係者間のコーディネーションや、2018年パル地震の土地・海洋調査、スンダ海峡の津波早期警戒システムのプロジェクトリーダーを務めている。



阪本 真由美（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授）
2010年京都大学大学院情報学研究科博士後期課程修了。JICAで9年間国際協力に携わった後、人と防災未来センター主任研究員、名古屋大学減災連携研究センター特任准教授を経て、2017年4月より兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授に着任。専門は、防災危機管理、被災者支援、防災教育、国際協力。博士（情報学）。



奈良 雄規（南あわじ市危機管理部危機管理課係長）
2001年、三原郡緑町役場入庁（建設課）。2005年、南あわじ市に合併（農業委員会・農林振興課）。2018年、危機管理課に配属、危機管理課係長。同年4月、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科に入学。



馬場 美智子（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授）
2000年立命館大学大学院理工学研究科博士後期課程総合理工学専攻修了。立命館大学環境システム工学科助手、防災科学技術研究所地震防災フロンティア研究センター研究員、国土交通省国土政策研究所研究官を経て、2011年より兵庫県立大学総合教育機構防災研究センター准教授に着任。2017年より、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授。専門は、土木計画学、都市地域計画・マネジメント。現在の研究テーマは、防災・減災まちづくり、災害リスク軽減のための都市計画制度など。